

毎月16日は
Shinran's Day
親鸞聖人の日

本願寺では、親鸞聖人のご命日である毎月16日を「Shinran's Day」とし、法要やイベントを行っています。



Shinran's Day

国宝書院特別案内

非公開文化財をご案内いたします!

受付: 当日午前9時～午前10時まで

龍虎殿にて受付後、参拝証をお渡ししますので、法要・法話(御影堂)にご参拝ください

時間: 11時頃(法話終了後)～12時頃(約1時間)

対象: Shinran's Day参拝者(参拝証をお持ちの方のみ)



たいめんしょ
対面所
(鴻の間)



さく
菊の間



撮影禁止

参加者10万人を達成!!

「お西のお坊さん」による境内案内

お西さんを知ろう!

1日4回 1回目 10:00 2回目 11:30
案内時間各30分 3回目 13:45 4回目 15:30

集合場所: お茶所(総合案内所)

“お西のお坊さん”が、境内各所をご案内いたします。参加希望の方は、案内時間までにお茶所へお越しください。[予約不要・参加無料]



お西さんを知ろう!

ご参加いただいた方には…

オニシ
024Card 全24種
1枚をプレゼント!

西本願寺の見どころを紹介する特別なオリジナルカードです。(非売品)



京都きものパスポート

本願寺では着物を着て、「お西さんを知ろう!」(境内案内)及び「Shinran's Day・書院特別案内」に参加された方へ、特典として記念品を贈呈します。

期間: 2024(令和6)年10月1日(火)～12月25日(水)

「お西さんを知ろう!」参加の方はお茶所(総合案内所)、「Shinran's Day・書院特別案内」参加の方は龍虎殿受付にて「京都きものパスポート」特典画面(スマートフォン)を呈示いただくと記念品を贈呈します。

詳細・お問い合わせはこちらより



2024(令和6)年度「お西さんの奉仕団～半日バージョン～」

国宝で特別体験
をしてみませんか?

西本願寺での清掃体験を通して、浄土真宗のみ教えや、親鸞聖人のご生涯、本願寺の歴史にふれていただければと、今年も下記の日程で「お西さんの奉仕団～半日バージョン～」を開催します。

どなたでも、おひとりさまからご参加いただくことができます。

開催日時 | 第1回 2024年(令和6)11月17日(日)

第2回 2024年(令和6)12月7日(土)

14:00～16:30

受付は龍虎殿 1階にて行います。10分前にはご集合ください。

お気軽にご参加
お待ちしております

参加対象 | どなたでもおひとりさまからご参加いただけます。

定員 | 各 50名

参加懇志 | 1名につき 3,000円(年齢問わず)

会場 | 阿弥陀堂・御影堂・安穩殿・書院 他

内容 | 阿弥陀堂・御影堂・渡り廊下・喚鐘廊下等の清掃作業

申込手順 | 9月24日より受付開始。開催1週間前までに参拝教化部念仏奉仕団担当へ電話、申込フォームまたは直接お申し込みください。

申込
フォーム



携行品 | 清掃奉仕のできる服装、念珠、雑巾1枚、健康保険証、その他各々が必要とするもの

連絡先 | 本願寺参拝教化部 念仏奉仕団担当 075-371-5181(代表)

念仏奉仕団とは

全国各地から参拝した門信徒などの団体が、本山の清掃奉仕、法話等を通じて、仏縁を深めます。また、7月下旬から8月上旬にかけては、小学生から中学生までを対象にした児童念仏奉仕団も行われます。

Time Schedule

14:10～ 清掃

阿弥陀堂・御影堂の外陣や縁側及び渡り廊下の清掃をしていただきます。



14:50～ 書院案内・抹茶接待

参加者のみなさまを特別に書院へご案内し、国宝の鴻の間に抹茶を召しあがりいただきます。



16:00～ 日没勤行参拝

本願寺での日没のお勤めをご一緒に。



16:10～ 法話

最後に、ほとけさまのお話を聞きます。

※「お西さんの奉仕団～半日バージョン～」への団体及び個人の参加については、1泊2日程の念仏奉仕団の参加回数にはカウントされません。
※午後の帰敬式受式(冥加金1万円)を希望される方は12:30までに龍虎殿にて受付を済ませてください。

本願寺の歴史、
親鸞聖人の
ご生涯について



本願寺は、浄土真宗本願寺派の本山で、正式には「龍谷山本願寺」といい、その所在する位置から「西本願寺」、または親しみを込めて「お西さん」とも呼ばれています。

浄土真宗は、鎌倉時代、親鸞聖人(1173-1263)によって開かれました。

親鸞聖人は京都の日野でご誕生になり、9歳の時に仏門に入り20年間比叡山で修行されました。29歳の時、源空(法然)聖人のお導きにより、「南無阿弥陀仏」とお念仏申す人生を歩む身となり、35歳の時に念仏への弾圧を受け越後に流罪となりました。赦免後は関東に向かわれ、20年余りに亘り多くの民衆に念仏の教えを弘められました。その後、京都に戻られ、『教行信証』を著されるなど執筆活動にも力を注ぎ、90歳でご往生されました。

親鸞聖人のご往生後、その娘覚信尼さまと聖人を慕う人々によって、東山大谷に廟堂(墓所)を建て聖人の遺骨を安置し、この廟堂が本願寺の基となりました。第8代蓮如上人(1415-1499)の時にみ教えが各地に広く伝わり、第11代顕如上人(1543-1592)の時に豊臣秀吉から土地の寄進を受け、京都堀川六条へ寺基が移され、今日に至っています。

境内には阿弥陀堂、御影堂の両堂をはじめ、書院、唐門、飛雲閣など国宝や重要文化財に指定された多くの建造物があり、1994(平成6)年12月に「古都京都の文化財」としてユネスコより世界文化遺産に登録されています。

『お西のお坊さん』
季節のお便り



佐々木 玲(釋 玲成)さん

西本願寺お茶所にいます「お西のお坊さん」が季節にちなんだお話をお届けします。

「秋は、夕暮れ、夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの列ねたるがいと小さく見ゆるは、いとをかし。」枕草子の一節です。秋の夕暮れ、鳥たちが連なり遠くへ帰っていく情景は、平安の時代から千年の時を隔てても、私の心を響かせます。中国の道綽というお坊さまは「西へ太陽が沈む光景はいのちが終わっていく相(すがた)をあらわしている」と教えてくれます。夕陽に、物悲しさを感じるの、いのちの終わりを見つめているから、かもしれせん。阿弥陀さまは「西の夕陽が沈む先にお浄土があるのだよ」とよびかけてくださいます。秋の夕暮れを眺める時、自分のいのちが帰っていく、その行き先をたずねてみませんか。